



平成 20 年 9 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社ハークスレイ
代 表 者 名 代表取締役会長 青木達也
(コード番号 7561 東証・大証第一部)
問 合 せ 先 常務取締役管理統括部部长 佐子弘和
(TEL. 06-6376-8088)

子会社の業績予想及び中間配当予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 9 月 9 日、当社子会社である株式会社 TRN コーポレーション株式会社が、別紙の通り業績予想及び中間配当予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

なお、本件による平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間及び通期業績への影響については、現在精査中であり、今後業績見通しに変更が生じる場合には判明次第、速やかにお知らせいたします。

以 上

平成 20 年 9 月 9 日

各 位

会 社 名	T R N コーポレーション株式会社
コード番号	3 3 5 1 名証セントレックス市場
代表者名	代表取締役社長 石本 洋
問合せ先	管理本部 経営企画部長 徳田 征司
電話番号	0 3 - 5 7 7 4 - 0 2 5 1

業績予想及び中間配当予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 4 月 21 日に公表いたしました平成 21 年 2 月期（平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日）の中間と通期の業績予想及び中間配当予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 2 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 20 年 3 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日）

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	17,270	620	480	200
今回修正予想 (B)	17,444	△280	△432	△1,476
増減額 (B-A)	174	△900	△912	△1,676
増減率 (%)	1.0%	-	-	-
前期実績 [平成 19 年 8 月期]	14,201	1,242	1,138	679

2. 平成 21 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日）

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	37,500	1,600	1,200	570
今回修正予想 (B)	34,700	278	34	△989
増減額 (B-A)	△2,800	△1,322	△1,166	△1,559
増減率 (%)	△7.5%	△82.6%	△97.2%	-
前期実績 [平成 20 年 2 月期]	30,440	402	231	△419

3. 平成 21 年 2 月期中間個別業績予想数値の修正（平成 20 年 3 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	400	180	110	100
今回修正予想（B）	400	180	110	△750
増減額（B-A）	0	0	0	△850
増減率（％）	0％	0％	0％	-
前期実績〔平成19年8月期〕	890	716	706	684

4. 平成 21 年 2 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	700	300	200	200
今回修正予想（B）	700	300	200	△650
増減額（B-A）	0	0	0	△850
増減率（％）	0％	0％	0％	-
前期実績〔平成20年2月期〕	1,090	736	514	35

※ 業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。尚、予想数値に修正が必要になった場合は、判明次第速やかに開示させていただきます。

5. 連結業績修正の主な理由

当中間期における日本経済の景気の減速により、消費者の生活防衛意識の高まりから当社グループの属する飲食業界においては経営環境の厳しさが増しております。当社グループにおいても、店舗コンサルティング事業においては出店計画の見直し、プライベート・エクイティ事業においては予定していた投資先の有価証券の売却の遅れ、店舗人材関連事業においては支援先拡大の見直しなど、当初の計画の達成が困難と見込まれます。

また、当社及び当社子会社の TCVP 4 号投資事業組合の保有しておりました株式会社リンク・ワンの株式を平成 20 年 8 月 11 日に譲渡したことにより、売却損失を 188 百万円計上いたしました。また同社の財政状態が平成 20 年 5 月末時点で債務超過の状態が続いており、更に当初の見込み通りの業績の改善が見られないため、連結業績につきましてはのれんの全額を損失計上することにより、のれん減損損失を 611 百万円計上する予定です。（これにより、毎月発生しておりましたのれんの償却 10 百万円が無くなる予定です。）

また、子会社の TRN アセッツ株式会社が運用しておりますファンド及び融資の評価を保守的に行ったために、40 百万円の投資償却損及び 40 百万円の貸倒引当金を計上する見込みです。また子会社の店舗プレミアム株式会社及び店舗サポートシステム株式会社の店舗出店計画の見直し

に伴う損失として 131 百万円の特別損失を、直営店の一部売却により 12 百万円の特別損失を計上する予定です。

また、子会社の店舗流通ネット株式会社の長期未収入金のうち回収が困難と判断した債権 37 百万円及び子会社の店舗サポートシステム株式会社の長期貸付金のうち回収が困難と判断した 7 百万円について、全額貸倒引当金を計上する予定です。

6. 個別業績修正の主な理由

当社の保有しておりました株式会社リンク・ワンの株式を平成 20 年 8 月 11 日に譲渡したことにより、売却損失を 109 百万円計上いたしました。また同社の財政状態が平成 20 年 5 月末時点で債務超過の状態が続いており、更に当初の見込み通りの業績の改善が見られないため、個別業績につきましては保有帳簿価額の全額の 646 百万円を損失計上することによります。

7. 配当予想の修正

基準日	1 株当たりの配当金		
	中間期末	期末	年間
前回発表予想 (平成 20 年 4 月 21 日)	500 円	500 円	1,000 円
今回修正予想	0 円	500 円	500 円
前期実績	1,000 円	1,000 円	2,000 円

8. 配当予想の修正の理由

当中間期は前述の通り中間純損失を 1,476 百万円計上する見込みとなり、誠に遺憾ながら中間期末の配当につきましては、無配とさせていただく方針であります。なお、期末配当につきましては、下期の業績の回復も見込まれることから変更はなく、従来通り実施いたす予定です。

9. 今後の施策

多大な損失を計上しておりました店舗人材関連事業を下期より切り離すことにより、当社グループの業績は改善されるものと考えております。今後は店舗運営事業を中心に業務の再建を行う所存です。具体的な施策は次の通りになります。

(1) 店舗運営事業

業務委託店舗を年間 120 店舗から 150 店舗ずつ着実に増やしてまいります。また、グループ企業を通じた内装・資材・食材等の総合支援を行うことにより、お客様の満足度の向上を目指します。

(2) 店舗総合サービス事業・店舗コンサルティング事業

当社グループのもつ飲食ソリューション能力を十分に活用し、他社にない付加価値の高いサービスをお客様に提供いたします。また、ブラッシュアップした店舗の流動化を行うと共に飲食ビルのサブリース等により内装工事事業やファイナンスサポート事業を強化していく予定です。

(3) 店舗不動産・プライベート・エクイティ事業

店舗不動産事業につきましては、不動産市況の悪化により保有区分の検討を行い、賃貸事業モデルへの転換を行ないました。現在、当社グループの保有するビルからは年間4億9,000万の賃料収入が見込まれ、引き続き高い稼働率を目指します。一方プライベート・エクイティ事業につきましては、今後積極的な投資は行わず、保有銘柄の売却に努めてまいります。

(4) グループシナジーの強化

平成20年8月28日のリリースの通り株式会社ほっかほっか亭総本部との業務提携を強化することにより、両社の持つ強みを活かし、出店希望者の紹介、店舗物件の紹介、食材資材の共同配送、内装工事、什器備品のメンテナンス業務等を行うことにより新たな収益源の確立を行います。また親会社である株式会社ハークスレイ及びそのグループ会社とのシナジーを強め、当社グループの企業価値の向上に努めます。

以 上